

小説が「よめる」ということ

近代文学講義 その1

「出だし」と「ラスト」

メロスは激怒した。必ず、かの邪智暴虐の王を除かなければならぬと決意した。メロスは政治がわからぬ。メロスは、村の牧人である。メロスは、羊と遊んで暮らして来た。けれども邪悪に対しても、人一倍に敏感であった。

ひとりの少女が、緋のマントをメロスに捧げた。メロスは、まごついた。佳き友は、気をきかせて教えてやっていた。君は、まっぴらだかじやないか。早くそのマントを着るがいい。この可愛い娘さんは、メロスの裸体を、皆に見られるのが、たまらなく口惜しいのだ。」

勇者は、ひどく赤面した。



「出だし」と「ラスト」

勇者は、ひどく赤面した。



メロスは激怒した。
おはなし
メロスが激怒して赤面スル



話のパターン

話のパターンは二つしかない

AがBするはなし(動作)

AがBになるはなし(変化)

Aを主人公だと考える癖

最も素直で素朴なよみ

Aを色々考えてみよう

メロスが……

セリヌンティウスが……

妹が……

王様が……

民衆が……

意味ですよ

変化と動作

ビルディングストーリー

成長譚



「変化」で一番有名な話
は、いわゆる成長

をよみとっている

動作
と

変化

普通は我々は物語から
キャラクターの

動作は対立



この側面
から物語を
見ることを
普通は
しない

減ぼされる話

シヨッカーが
仮面ライダーに

減ぼす話

シヨッカーを

仮面ライダーが



「動作」は主体「A」に
よつては、逆の意味になる

